



第 55 回岩手大学 COE フォーラム

岩手大学 21 世紀 COE プログラム「熱-生命システム相関学拠点創成」では、関連分野において国内外で活発に研究をされている方をお招きしてフォーラム（セミナー）を開催しています。今回は、北海道大学大学院理学研究科（北方生物圏フィールド科学センター）・本村泰三先生をお招きし、藻類（特に褐藻植物）の受精過程と細胞内オルガネラの動態に関する形態学的な知見についてご講演をしていただきます。藻類は、独特の生活環、体制、有性生殖、発生、細胞構造、生理的特性を持ち、しかも、多様性に富む非常に興味深い生物です。さらに、海産資源としても注目を浴びており、岩手県においてもその有効活用の必要性が強く認識されています。本村先生は、フィールドで採集されたものに加えて試験管内で培養されたものを用いて、蛍光顕微鏡や電子顕微鏡を使って興味深い研究を活発になさっています。

お忙しいとは思いますが、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。

第 55 回担当・農学部附属寒冷バイオシステム研究センター
上村 松生 (uemura@iwate-u.ac.jp)

日時：2007 年 10 月 26 日（金）16:40～18:10
場所：岩手大学農学部 2 番教室

本村 泰三 氏

北海道大学大学院理学研究科
（北方生物圏フィールド科学センター一室蘭臨海実験所）

褐藻植物の受精と接合子の発生

Fertilization and Zygote Development in Brown Algae

海洋における重要な一次生産者は陸上の緑の植物ではなく、葉緑体を二次共生によって獲得した褐藻類や珪藻類などの黄色植物である。本発表では、藻類の多様性について紹介した後に、コンブやヒジキなどの褐藻類の有性生殖（同形・異型配偶子接合、卵生殖）に焦点を当て、これら 3 つの有性生殖パターンにおけるオルガネラ（葉緑体、ミトコンドリア、セントリオール）の細胞質遺伝について報告する。また、褐藻類の核分裂および細胞質分裂における中心体（セントロソーム）の役割についても紹介し、動物細胞や陸上植物細胞との比較を行いたい。

キーワード：オルガネラ、褐藻、細胞分裂、受精